

㊦ (小計 52点)

問一 (10点) さみしげな声と音楽をきいていると、転校する蓮実には、見慣れた街の景色が知らない街のように感じられるということ。

問二 (12点) 別れが近いために、それほど親しくない友人たちとも記念写真を撮ったり、連絡先やプレゼント交換をしたりして、普段とはちがう、思い出に残るような行動をとること。

問三 (14点) 自分にとっては「絶対的な味方」は家庭にいるもので、学校でそれを求めないことが a の「ふつう」だが、花音にとっては学校に「絶対的な味方」がいることが、b の「ふつう」であることに気づいて今までの自分の考え方がゆらいだから。

問四 (16点) ④では自分を置いて転校する蓮実を感じ、冷たい態度をとったが、蓮実が真剣にこの先も友達でいてくれたらうれしいと言ったので、⑤では自分も蓮実を受け入れ、大切にしていきたいと思うようになった。

㊧ (小計 38点)

問一 (12点) 自身の体験していないことでも、目の前の事象と同じように他人の考えや心情を再現し共感させる役割。

問二 (14点) 3〜4歳になるまでにお母さんから教わる人間の認識の基礎となるもので、その国の歴史の中で生まれてきたもの。

問三 (12点) 先生の言うことだけが正しいと教わる服従型の教育システムは、頭の中を先入観で固めてしまう。しかし、対話型授業を行うと、「先入観」の部分と「自分で考える部分」の二つの空間が脳に生み出せると考えている。

㊨ (小計 10点)

- (1) 郵送
- (2) 善後策
- (3) 貸借
- (4) 修める
- (5) 三寒四温

【出典】

- ㊦ 河合二湖 『金魚たちの放課後』
- ㊧ 武田邦彦 『先入観はウンをつく』